

WHAT

イギリス・マンチェスター大学

文教育学部 人間社会学科教育科学 3年
荒井瑞希

10ヶ月前を振り返ったとき、そこには日本とイギリスとの文化の違いや言語の壁に戸惑っている自分がいます。その頃の私は、とにかく新しい環境、新しく出逢う人々に慣れる事で精一杯の状態でした。しかし、現在の私は、様々な人々との出会いを純粋に楽しむことができ、気軽に声を掛けてくれる友達が世界中にいます。私にとって10ヶ月間の留学は、とても短かったように感じられますが、日々の経験・出来事を通し、私を大きく成長させてくれました。

マンチェスター大学では、これまで経験したことのない学習形態である、チュートリアルやグループワークを体験しました。特に、英語に自信の無かった留学初期は、チュートリアルで発言するのに、いつも一歩踏み出せないでいました。そんな思いを持っていた時、ネイティブの友人が、「第二言語で発言するのはとても勇気のいることだよ。だから、私はあなたをとてん尊敬しているよ。」と、優しく励ましてくれました。私の悩みや思いを理解してくれる人の存在に気づいてからは、それまであった劣等感やプレッシャーがふっと無くなり、逆にこの環境で自分がどれだけ出来るか試すことが楽しくなりました。ペアワーク・グループワークでも同様に、自分の役割を積極的に見つけて、“自分がある価値”を可能な限り自己の力をグループに発揮しようと努力しました。私がしっかりと考え、意見を持っている事を示せば、クラスメイトはもちろん、先生も私という個人を認識し、私の意見や考えに耳を傾けるようになってくれます。そして最後には、大学の図書館で時間をかけて文献と向かい合い、考えを自分なりに精一杯表現したエッセイで、ファーストグレードを収める事が出来ました。殻を破って外に飛び出すのは勇気があることですが、努力と周

囲の暖かいサポートによって、私は小さいながらも結果を得る事が出来ました。

学問に専念する傍ら、私は予めからの目標であった海外での職業体験に挑戦しました。外国人留学生ということもあり、何度も失敗を重ねましたが、最終的に、マンチェスターではNative Marketing Moderatorというアルバイトを、そして、ロンドンでは3ヶ月間のPR&Marketingインターンを経験しました。イギリスの企業文化を肌で感じ、大学では鍛えられなかったビジネス英語や多国籍の同僚・上司との付き合い方を学ぶ貴重な経験となりました。

この10ヶ月間は、私の人生の中で最も内容の濃い、学びの詰まった期間だったと思います。家族や友人はもちろん、先生方やその他多くの人々の協力・理解があったからこそ、自分でも確信を持ち“全力を出し切った”と言える留学生活を送る事が出来たのだと思います。今後は、留学中に育んだ人々との繋がりを大切に、多くの経験を通して実社会でグローバルに学んだ事を活用して行きたいです。